



< ファクトシート >

ザイド・フューチャー・エネルギー賞について

ザイド・フューチャー・エネルギー賞は、アラブ首長国連邦(UAE)政府によって設立され、再生可能エネルギーおよび持続可能性の分野での卓越した成果に対して毎年贈られる国際的な賞です。2008年に開始された同賞は、国営企業のマスタール社が賞金を出資するアブダビ政府に代わって運営しています。

同賞の設立の背景には、アラブ首長国連邦の建国の父であり、同国における持続可能な開発の先駆者として、再生可能エネルギーとサステナビリティの基礎を築いた故ザイド・ビン・スルターン・アール・ナヒヤーン大統領のビジョンを具現化するという目的がありました。再生可能エネルギーとサステナビリティの分野での業績と革新を称えると共に、次世代の人材や技術に影響を与え啓発していくことを目指しています。

2010年度に最優秀賞を受賞したトヨタ自動車株式会社は、自動車製造企業による日本社会への還元の一環として、賞金150万米ドルを基金にしてマスタール工科大学の学生のために奨学金を設立しました。

受賞部門と審査基準

総額400万米ドルの賞金は以下の5つの部門に分配されます。

- 大企業: 功労賞
- 中小企業(SME): 150万ドル
- 非政府組織(NGO): 150万ドル
- 生涯功労賞: 50万ドル
- グローバル高校賞: 50万ドル、5地域
(アメリカ・欧州・アフリカ・アジア・オセアニア)で一校ずつ、各校にそれぞれ最高10万ドルが授与

各部門は、以下の4つの主要基準に基づいた合計得点で評価されます。

- インパクト
- リーダーシップ
- 革新性
- 長期的視野

受賞者決定までの日程

- 応募・推薦 開始: 2014年2月2日
- 応募・推薦 締め切り: 2014年7月14日
- 選考プロセス: 2014年8~10月(4段階の選考)
審査員団による最終審査 10月20日
- 表彰式及び祝賀会: 2015年1月19日

過去の受賞者

2014 年度

- 大企業: ABB(スイス)
- 中小企業(SME): Abellon CleanEnergy(インド)
- 非政府組織(NGO): フラウンホーファー太陽エネルギーシステム研究所(ISE)(ドイツ)
- 生涯功労賞: BYD(比亞迪)の創業者で現会長の王伝福(中国)
- グローバル高校賞: 世界各地の5つの高校
(※大企業のファイナリストには GE とウォールマートが含まれる)

2013 年度

- 大企業: Siemens LLC(ドイツ)
- 中小企業(SME): d.light design(アメリカ)
- 非政府組織(NGO): Ceres(アメリカ)
- 生涯功労賞: Jose Goldemberg 教授(ブラジル)
- グローバル高校賞: 世界各地の5つの高校
(※大企業のファイナリストにはシャープが含まれる)

2012 年度

- 大企業: Schneider Electric(フランス)
- 生涯功労賞: Ashok Gadgil 博士(アメリカ)
- 中小企業(SME)・非政府組織(NGO)最優秀賞: CDP(英国)
- 中小企業(SME)・非政府組織(NGO)優秀賞: Orb Energy(インド)
- 中小企業(SME)・非政府組織(NGO)次優秀賞: Environmental Defense Fund(アメリカ)

2011 年度

- 最優秀賞: Vestas(デンマーク)
- 優秀賞: E+Co(アメリカ)
- 次優秀賞: Amory B. Lovins(アメリカ)

2010 年度

- 最優秀賞: トヨタ自動車(日本)
- 優秀賞: サンテックパワー(中国)
- 優秀賞: International Development Enterprise India (IDEI)(インド)

2009 年度

- 最優秀賞: Dipal Barua(バングラディッシュ)
- 優秀賞: Martin Green 博士(オーストラリア)

審査員団:

審査員団 団長	アイスランド共和国 大統領 オラフル・ラグナル・グリムソン
副団長	大韓民国 元国務総理 韓昇洙(ハン・スンス)
	モルジブ共和国 元大統領 モハメド・ナシード
	南アフリカ共和国 運輸大臣 Elizabeth Dipuo Peters
	国際再生可能エネルギー機関(IRENA) 事務局長 アドナン・アミン
	Global Marketplace Abu Dhabi 委員長 Ahmed Al Al Sayegh
	ヴァージングループ創業者 リチャード・ブランソン
	Tata Trusts 会長 ラタン・タタ

マスター社について

設立: 2006年4月

事業形態: ・国営の再生可能エネルギー事業会社(アブダビ政府100%出資の投資会社であるムバダラ・ディベロップメント・カンパニーの完全子会社)
・アブダビ政府が150億ドルを拠出して設立
・再生可能エネルギーのプロジェクトに10億ドル超のエクイティに投資
(69億ドル超のバリュー)
・同首長国皇太子シェイク・ムハンマド・ビン・ザイド・アール・ナヒヤーンの直接管理下
・2020年までにアブダビ政府が目標を設定している再生可能エネルギー比率7%に貢献

本社: アラブ首長国連邦アブダビ

ビジョン: アブダビを再生可能エネルギーに関する情報基地にする

ミッションと役割: ミッションはアブダビやその他地域において再生可能エネルギーとクリーンテクノロジーに投資することで財政的収益と社会的利益を上げることです。石油や天然ガス生産に頼るアブダビ経済において、マスター社はこれらから脱却したもう一つの収益の柱をつくる役割として重要な役割を担っています。

ビジネスユニット: ①マスター・シティ

(クリーンテクノロジーのクラスターとして経済特区、現在建設中)

②マスター・クリーンエネルギー

(再生可能エネルギーの関する不動産開発事業やインフラ投資事業)

事業例: 世界最大規模の集光型太陽熱発電所「シャムス1」)

③マスター・キャピタル

(世界的に有望視される再生可能エネルギー技術や、クリーン技術への事業投資)

◎他の運営 ・マスター・インスティテュート

(サステナビリティの問題解決に特化した世界初の大学院レベルの機関、
2009年開校)

・ワールドフューチャーエネルギーサミット

・ザイド・フューチャー・エネルギー賞

マスダールシティについて

アブダビ市内から 17km の郊外に 6.5 平方キロメートル(東京ドーム約 139 個)の敷地に建設中の再生可能エネルギーとクリーンテクノロジーによって低炭素排出都市を目指す経済特区で、2025 年に完成予定。再生可能エネルギー・クリーンエネルギーで敷地内に拠点を置く企業には所得税と法人税が非課税となります。太陽光やなどの再生可能エネルギー分野の先端技術を導入して、最終的に 4 万人の居住人口と 5 万人の通勤者を見込んでいます。

2014 年 3 月現在の建設状況:

- | | |
|-----------------------------------|---------------------------|
| ・10 メガワットのソーラーパネル | 稼働済み |
| ・6 つのビルからなるマスダール科学技術研究所のキャンパス | 第一フェーズ 稼働済み
第二フェーズ 建設中 |
| ・シーメンス中東本社ビル | 2014 年 1 月完成 |
| ・マスダール本社屋・国際再生可能エネルギー機関(IRENA)のビル | 建設中 |
| ・一般企業向けテナントビル | 第一棟が完成(GE, 三菱重工が入居) |

日本企業の関与:

三菱重工業がマスダール社と共同で、三菱自動車製の電気自動車「i-MiEV (アイ・ミーブ)」を導入し、運用実験を行っています。本体は 5 ドアのハッチバックで、EV 市場に投入された初めての商用モデルとなっています。

所在地のマップ:

